



星の語る言葉

ルル・ラブア著『占星学』のあとがきに次の一文があります。

「星の語る言葉を人間の言葉に翻訳するという作業は思ったよりも難しく、観念ではわかっているにもかかわらず適切な表現が見つからなかったり」この「観念」というのがイメージのことです。

星の語る言葉をイメージでとらえられるようになると、理解が早まります。

それをどう日本語で表現していくかはともかく、ホロスコープ・リーディングを学ぼうとする皆様は実占によってイメージをつかんでいくことです。

実際の人物の言動や性格や出来事を何度も比較検討して「あ～牡羊宮というのはこういうイメージだな」とか「火星の働きというのはこういうイメージだな」とかいうふうの一つひとつ感じていくことが必要です。

星の語る言葉をイメージする

☆☆☆

《ホロスコープ・リーディングが難しい理由》

既存の西洋占星術本を読んでも、ホロスコープ・リーディングが難しい理由を知っておくと、リーディングへの理解が深まります。

皆様の中にもホロスコープ（出生天球図）と西洋占星術本に書かれた個々の象意解釈を照らし合わせて読まれた方も多と思います。

「当たっている！」「そうかなあ？」「当たっていない…」いろいろあると思いますが、正反対のことが書かれていたりして「どっちが正しいの？」と混乱したりすることが多いのです。

本当にホロスコープ・リーディングができるようになると、たった一つのホロスコープから、その人の性格や運勢が手にとるように実感できます。

なぜ、全体像がみえてこないのかというと、第一に、ホロスコープの個々の象意解釈の中で、どれを優先すべきなのか分からないからです。

第二は、ホロスコープに応じた個々の象意解釈を応用展開できないからです。

《ホロスコープの真の作者の言語》

西洋占星術本は、不特定多数に向けた個々の象意解釈しか書けませんので、どれが重要か、象意はどう変化していくのかは、自分でホロスコープにあわせた複合的な解釈をしなければなりません。

実際にいくつかのホロスコープをリーディングするとわかるのですが、同じホロスコープは世界に二つとしてありません。常にたった一つしかないホロスコープを自在に読むことが必要になります。そのためには「星の語る言葉」をイメージとして実感できていなければ、自在な応用展開がむずかしいのです。

どうしてかということ、ホロスコープの真の作者は西洋占星術師ではなく、宇宙存在だからです。たとえていえば、日本語ではなく「宇宙語」で著わされているために、象意は日本語で単純に書けるものではありません。

金星なら「金星の象意」をあらわす宇宙語を、矩（スクエア＝90度）なら「矩の象意」という宇宙語を正しく理解するためには、言葉ではなくイメージでしかとらえられないのが本当です。そういった宇宙語の翻訳者が「西洋占星術師」です。

《強く働く象意の優先順位を理解する》

ホロスコープ・リーディングで重要なのは、ホロスコープの中で、どのサイン（宮）やハウス（室）や星の象意が、より強くその人に影響しているのかという優先順位を見抜くことです。

原則は太陽と太陽サイン（宮）です。実際はホロスコープによって異なってきます。太陽の象意は核なので、表面に現われずに、ほかの象意のほうが優先して現われるケースは案外と多くあるものです。

まさにケース・バイ・ケースなので既存の西洋占星術本では書けないのです。

この『入門講座』では、重要な占星要素が何かを述べることはもちろんですが、応用した解釈ができるように「星の語る言葉」をイメージでとらえるためのたとえを掲載するなど、少しでも応用展開がしやすいように工夫しています。

読みすすめるにしたがって、何が重要なのかもご理解できることでしょう。